

今年度研究業績等一覧

書籍

・現代保育内容研究シリーズ9 現代保育の理論と実践
第6章「地域子育て支援拠点における「気になる子ども」とその親の特徴」

一藤社 2024年11月

論文

・Association between the characteristics of children with special needs in kindergarten and nursery school and inappropriate parenting in Japan
Kai Nagase, Kazuto Imbe, Mami Oda, Junichi Yokoyama, Kumi Fujita,
Frontiers in Education, 2025年3月(投稿中)

・「幼児期の自閉スペクトラム症児及び家族への支援のあり方-早期支援プログラムAPPLEの実践をもとに-」

藤田久美, 永瀬開, 小田真実, 井辺和社, 「山口県立大学学術情報」2025年3月

学会発表

・「ある自閉スペクトラム症幼児における社会性の発達(1):支援者との遊び場面における共同注意行動と言語行動の観察から」

藤田久美, 永瀬開 日本特殊教育学会第62回大会 2024年9月7日

・「ある自閉スペクトラム症幼児における社会性の発達(2):日常生活における共同注意行動と言語行動の様子の聞き取りから」

永瀬開, 藤田久美 日本特殊教育学会第62回大会 2024年9月7日

その他

・「2024年度 山口県立大学 社会福祉学部附属 子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 事業活動報告」
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所 2025年3月

社会福祉学部生への保育士資格取得支援

令和6年度には7月11日、11月6日、12月18日、1月15日、1月27日の計5回の保育士資格取得支援を実施しました。7月11日、1月15日、1月27日は、保育士試験受験を志望する1、2年生を中心に、オンラインでの受験申請方法について説明会を行い、受験申請のサポートを行いました。11月6日は次年度以降に初めて保育士試験を受験する1年生を主な対象として、横山研究主任から試験の概要や研究所での保育士資格取得支援の内容についての説明を行いました。12月18日は保育士試験に合格した先輩2名から、保育士試験の受験を志望する学生が試験に対する体験談を聞く会を設けました。

また、試験に対する参考書の展示・購入相談や、実技試験対策としてピアノの提供等、保育士試験に対する全般的な相談に随時対応しました。



地域の方の感想

「自分の話をきいてもらえて、具体的なアドバイスをきけた。普段遊んでいるママ友も同じような悩みがあったことがわかって安心できた。体験談がとても良かった。」

(「スマイルピアカン」参加・保護者)

「悩んでいることも長い目で見るのが大切だと改めて感じました。それぞれ悩みや課題をもって、寄り添う姿勢で話を聞いてくださるのがとても助けになります。」(「ママかんフリーカフェ」参加・保護者)

「職員同士での「気になる子ども」の対応の仕方や連携の取り方など、悩んでいたところをド直球に突かれた感じが良かったため、自分の中で解決されたので活かせると思った。」

(「YPU保育者キャリアアップセミナー」参加・保育士)



学生子ども家庭ソーシャルワーカーの感想

「障がいのある子どもたちと接する機会があまりなかったのですが、今回のわらべうたの会で関わられたため、子どもたちの視点に立って活動することができました」

(「子ども家庭しあわせ学習会」参加・社会福祉学部1年生)

「初めは人見知りをしていて「うん」以外のおしゃべりをしてくれたときがものすごくうれしかった。子どもは一人ひとりの好みに合った遊びがあると感じた」

(「スマイルピアカン」参加・社会福祉学部1年生)

「3年生から運営に携わってきて、たくさんご家族の方に会うことができ、わらべうたを通して思い出がたくさんできました。どの回もすごく楽しかったです」

(「は♪あ♪い」参加・社会福祉学部4年生)



編集後記

研究所は無事に3年目を迎えることができそうですが、ひとえに人材育成、調査研究、地域連携の3事業にご協力いただいた方々のおかげです。来年度も引き続き事業を進めるとともに、より山口県の子どもと家族の幸福の実現に向けて邁進していきます。今後とも子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所をどうぞよろしくお願いいたします

発行
山口県立大学社会福祉学部附属
子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所
〒753-0021
山口県山口市桜島6丁目2-1
山口県立大学1号館A406
令和7年3月31日

大学のHP・
ブログは
こちらから



2024年度 山口県立大学 社会福祉学部附属



子ども家庭ソーシャルワーク 教育研究所 事業活動報告



～すべての子どもと家族の幸福の実現を目指して～

はじめに

令和5年4月に山口県立大学社会福祉学部附属「子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所(以下、研究所)」が開所し、2年目を迎えました。研究所では、山口県の子どもと家族の幸福の実現のための教育研究を行うことを目的とし、調査研究、人材育成、地域連携の3つの事業をすすめています。本報告パンフレットでは、大学行事への参加、3つの事業の活動報告、山口県乳幼児の育ちと学び支援センターとの連携、学生子ども家庭ソーシャルワーカーの活躍の様子等、令和6年度の活動報告を行います。

大学のイベント等への協力

グローバル学生交流事業(国際交流)

7月12日に、慶南大学(韓国)からの大学生と社会福祉学部の学生が交流しました。学生子ども家庭ソーシャルワーカーがプログラムを企画し、準備や運営を担当しました。当日は、わらべうたや手話、折り紙の活動を通して親交を深めました。



地域交流イベント「県大見本市」

8月7日に山口県立大学にて開催された「県大見本市」に参加しました。研究所紹介のパネルや、研究所の調査研究、人材育成、地域連携の各事業の活動内容に関するポスターの掲示を行いました。



来場者の方には、藤田所長から研究所の紹介を行いました。研究所の幅広い活動を多くの方に知っていただく機会となりました。

研究所事業への1年間の参加者数

山口県の子ども家庭支援に携わる人材育成

・キャリアアップセミナー参加者……………55人
・YPU保育者ステップアップセミナー参加登録者数……90人
・YPU保育者ステップアップセミナー視聴回数……………621人
(当日・ビデオ視聴者数含む)
・保育士資格取得を支援した学生……………のべ66人
・学生子ども家庭ソーシャルワーカー(学生スタッフ)登録数……………84人

オープンキャンパス

7月13日、8月4日に開催されたオープンキャンパスにて、研究所のブースを設け、高校生や保護者の方に研究所の活動内容を説明しました。また、学生子ども家庭ソーシャルワーカーが受験や大学生活等に関する高校生・保護者からの相談に応じました。



山口県乳幼児の育ちと 学び支援センターとの連携

研究所は、「山口県乳幼児の育ちと学び支援センター(通称:乳幼せ)」と連携を図りながら、子ども家庭福祉問題に対応できるソーシャルワークの知識と技術を兼ね備えた子ども家庭支援に携わる専門家の育成のための教育研究を行っています。今年度も昨年度に引き続き藤田所長が乳幼せ専門分野に係る幼児教育アドバイザーとして協力しました。また、令和6年9月に開催された乳幼せ主催の「令和6年度特別な配慮を必要とする子どもの保育研修会C」にて藤田所長と横山研究主任が講師を担いました。令和6年8月に開催予定だった乳幼せ主催・研究所共催「保育者フェスタ2024」は台風の影響を受け、残念ながら中止となりましたが、令和7年度に開催を予定しています。



山口県の子ども家庭福祉問題の対応・課題解決に向けた地域連携

地域連携事業への参加人数		
プロジェクト名	学生	地域の方
は♪あ♪い	71	81
いまさら	63	9
APPLE	4	12
BRIDGE	11	18
LIEN	20	22
ママかんフリーカフェ	51	75
スマイルピアカン	19	39
計	239	256

2024年度 子ども家庭ソーシャルワーク教育研究所の活動

Project 1 山口県子ども家庭福祉のための 調査研究

令和6年度は山口県内の地域子育て支援拠点を対象とした調査研究を行いました。地域子育て支援拠点とは、子育て中の親子が気軽に集い、相互交流や子育ての不安・悩みを相談できる場所です。この地域子育て支援拠点には、近年、明確な診断はないものの発達の違いや偏りが見られる「気になる子ども」とその保護者の早期発見・早期支援が求められています。しかし、実際に地域子育て支援拠点で「気になる子ども」とその保護者にどのような支援が行われているのかについては不明な点が多い状況です。

調査事業として、地域子育て支援拠点に勤務する支援者を対象に、「気になる子ども」とその保護者の特徴に関するインタビュー調査(調査I)と「気になる子ども」とその保護者の支援におけるスタッフ・関係機関との連携の実態、支援者自身が必要としているソーシャルワーク内容、そして、それらの関連について検討しました。調査Iで得られたデータは、「現代保育内容研究シリーズ9 現代保育と教育の理論と実践」に論文として掲載されています。また、調査IIで得られたデータは現在分析を進めており、令和7年度以降学会や論文にて公表する予定です。

今年度の研究は、地域子育て支援拠点において見られる「気になる子ども」とその保護者の特徴を整理したことで、その実態解明に貢献するものでした。また、分析途中ではあるものの、地域子育て支援拠点における拠点内外での連携の実態と拠点内外での連携に関連する要因を検討したことは、地域子育て支援拠点での「気になる子ども」とその保護者に対する早期支援を充実させるための重要な観点です。研究所ではこれらの研究を通じて、次年度以降も山口県における地域社会全体として子ども家庭支援の充実に貢献していきます。なお、来年度は昨年度同様幼稚園・保育所を対象とした研究へと立ち戻り、再び支援者の専門性の向上や子ども家庭支援のあり方を探究していく予定です。

Project 2 山口県の子ども家庭支援に携わる 人材育成

YPU 保育者ステップアップセミナー

YPU保育者ステップアップセミナーは、幼稚園・保育園・認定こども園等に勤務する保育者を対象としたリカレント教育を行うことを主な目的として実施しています。1年をとおして8回の配信を行いました。

- 第1回 5月17日 「保育者のための子ども家庭支援に関わるソーシャルワーク」横山 順一
- 第2回 6月21日 「保育者のための発達心理学」永瀬 開
- 第3回 7月19日 「保育者のための臨床心理学」大石 由起子
- 第4回 9月20日 「保育者のための特別支援教育」藤田 久美
- 第5回 10月18日 「保育者のためのソーシャルワーク」長谷川 真司
- 第6回 11月15日 「保育者のための言語心理学」小田 真実
- 第7回 1月24日 「保育者のための障害福祉」勝井 陽子
- 第8回 2月21日 「保育者のための保育・教育原理」井辺 和杜

保育者のためのキャリアアップセミナー

8月19日に、YPU保育者のためのキャリアアップセミナー「保育実践で出会う「気になる」子どもの理解と支援」を開催しました。県内保育者54名の参加がありました。

本講座では、専門家としてのスキルアップを図るために、家庭福祉課題を抱えた子どもと発達の気になる子どもの理解に焦点を当てながら、子どもや家族の支援に必要な知識と技術について学びました。

- 【講義1】「気になる」子どもの理解と支援のためのソーシャルワーク 横山順一
- 【講義2】「気になる」子どもの心理と親子関係 大石由起子
- 【講義3】発達の「気になる」子どもの理解と支援 永瀬開
- 【講義4】家族及び関係機関との連携による「気になる」子どもの理解 藤田久美

【学びの総括】グループワーク、まとめ・質疑応答
講師(藤田、横山、大石、永瀬、小田)
講義後のグループワークでは、参加者同士で情報交換をしながら、学びのふりかえりや保育実践の共有が行われました。講義後の感想では、「気になる子どもの保護者に対する支援の仕方も具体的に学ぶことができた」「一歩踏み込んでみようといった気持ちになれた」という声などが寄せられました。

Project 3 山口県の子ども家庭福祉問題への 対応・解決に向けた 地域連携 — 子ども家庭しあわせプロジェクト —

いまさら

「いまさら」は不登校や登校しづりのある子どもと家庭に対する支援事業です。学生が子ども一人ひとりに合った遊びを企画し、子ども自身が楽しめるサードプレイスであると共に、親御さんのお悩みに寄り添う場所を目指しています。

5月に1年生を含めて「いまさら」の活動方針についての説明会を開催しました。そのうえで、6月、7月、10月、11月と継続して不登校支援や、不登校児の保護者の想いや支援に対する希望について、実際の事例を通じた学習会を行いました。この学習会で学んだことを活かし、12月には子どもと関わる活動も実施しています。

「いまさら」が不登校や登校しづりのある子ども家庭にとってのサードプレイスとなるように、来年度も学びを深めていきます。



は♪あ♪い

「は♪あ♪い」はわらべうたを導入した、親子のコミュニケーション促進をサポートするインクルーシブな子育て支援プログラムです。今年度は4月16日、5月14日、6月21日、7月24日、10月16日、11月20日、12月24日、1月14日の計8回開催しました。「は♪あ♪い」は、学生が主体となって準備・運営・企画し、当日はいつもお子さんとご家族の笑顔に溢れる活動となっています。

また、11月8日には「は♪あ♪い」の企画段階からご指導いただいているノートルダム清心女子大学教授 湯澤美紀先生をお招きして、子ども家庭しあわせ学習会を開催しました。テーマは「子どもも大人も共に育つわらべうたについて学ぼう」でした。多くの地域の方にお越しいただき、身体を大きく動かしたり、お手玉を使って遊んだり、子どもも大人もたくさんの笑顔があふれる時間となりました。参加した学生の中には、初めてわらべうたに触れる学生もいたようです。わらべうたの魅力を再発見し、さらに学びたい、体験したいという意欲を高める良い機会となりました。



APPLE

「APPLE」は、自閉スペクトラム症の子どもとその親を対象とした早期支援プログラムです。Aくんが2歳2カ月のときから支援を開始しました。もうすぐ4歳になるAくんですが、毎回、様々な遊びにチャレンジして、可愛い姿をたくさん見せてくれています。令和6年度は4回実施しました。APPLEでは、子どもが興味関心のある遊びや活動をもとに、人のかかわる経験の中で社会性やコミュニケーションの発達を支えることを大切にしています。この実践過程で得られた情報を整理し、幼児期にある自閉スペクトラム症の子どもとその保護者への早期支援のあり方を検討するという研究活動を行っています。令和6年度は学会発表(藤田所長、永瀬研究員)と論文執筆(藤田所長、永瀬研究員、小田研究員)を行いました。さらに、得られた知見を日常的・継続的に支援を行う児童発達支援センターや保育現場に還元することを最終的ゴールとしています。学生子ども家庭ソーシャルワーカーは、研究員がAくんと保護者を支援する場に同席したり、ビデオを見たりして学んでいます。



BRIDGE

「BRIDGE」は、特別支援学校の中等部や高等部に通う生徒と山口県立大学社会福祉学部の学生が、ともに大学で学び合うインクルーシブな学びの場です。大学をはじめとする高等教育機関において特別支援学校で学ぶ生徒や山口県立大学社会福祉学部の学生が「自分」について考え、将来に活かしていく場にしてほしいと考えて設けられた場です。今年度は第1回目が6月28日、第2回目が10月25日、第3回目が12月13日、第4回目が2月7日に開催されました。第1回目の活動では、「自分の好きなもの」、第2回目の活動では、「他者から見られた自分と自分で思う自分の違い」、第3回目では「過去の自分」、第4回目では「未来の自分」をテーマに学び合いを行いました。



LIEN

今年度の「LIEN(リアン)」は、医療的ケア児及び重症心身障害児とその家族の支援にかかわっていらっしゃる支援者同士の交流と学び合いの場として10月31日、3月13日にオンラインで行いました。児童発達支援センターや相談支援事業所、特別支援学校に勤務する支援者の支援観や日常の支援を通して抱えている課題を共有する時間となりました。医療的ケア児の教育実践について教えていただくことができました。また、研究所と連携している「やまぐち医療的ケア家族ネットワーク」で「いっちゃんやまぐち」代表の坂田氏から医療的ケア児の就学支援に関する現状と課題についてお話を聞くことができました。坂田氏のお子さまのAちゃんとは研究所の準備段階から学生と交流を続けています。Aちゃんは来年度、小学校に就学されます。これからもAちゃんの成長にかかわっていかれたらと思います。



ママかんフリーカフェ

ママかんフリーカフェは、発達の気になる子どもの家族を対象とした子育てサロンとして本学の地域共生センター管轄の地域交流スペースYuccalにて長年開催されてきましたが、令和6年度から研究所の地域連携事業として開催しています。藤田所長と障害児教育研究室の学生が中心となり、運営を行い、7回の開催でのべ75名のご参加がありました。

本カフェでは、参加者同士が子育てにおける悩みや課題を共有し、情報交換を行う場を提供しました。参加者からは、「ここに来て元気になれる」という嬉しいお言葉や、「先輩ママからの情報がとても役に立ちました」といった感想をいただくことができました。また、運営にかかわった学生は、家族の思いや願いを直接聞くことを通じて机上ではできない学びの機会をいただきました。

今後も、参加されるご家族にとってより有意義で心温まる時間となりますよう、運営していきたいと思ひます。



スマイルピアカン

「スマイルピアカン」は、未就園の乳幼児を子育て中の保護者の語り合いの場です。参加者が、子育てにまつわる思いを語り共有することで笑顔になってくださることを願って命名しました。

今年度は、5月、7月、11月、1月の金曜日の10:00~12:00に、カフェタイムも含めて毎回2時間程度、4回開催しました。10人未満の小さな集いですが、授乳・離乳、トイレトレーニング、外出・自分の時間、子どもをめぐる人間関係など、毎回メインテーマを設定して語り合いました。各々が今抱えているちょっとした悩みや疑問を語ると、ほかのメンバーが、知っている情報や工夫を提供しあい、カフェタイムにも途切れることなく話が続きました。

初めて参加した時には母親から離れがたかった子どもたちも、回を重ねるうちに場に馴染み、保育ボランティアの学生と遊べるようになっていきました。母親と同じスペースで、保育ボランティアの大学生に遊んでもらいながら、時折母親のひざに戻ることができます。完全に分離して託児をするスタイルではなく、母親が見える距離で行き来しながらゆっくりと母子分離が図れるところがこの集いの特徴です。

